

RS ウイルス感染症流行に伴うお知らせ

先週、1名のRSウイルス感染症の発症があり、玄関での掲示やホームページでお知らせをさせて頂いておりました。昨日(月曜日)、1歳児クラスにてRSウイルス感染症のお子さん4名の報告があり、本日、RSウイルス感染症以外も含め多数の発熱・咳での欠席者が出ました。RSウイルス感染症は特に2歳以下のお子さんが重症化しやすい、と言われております。よって、感染拡大防止のため0歳児、1歳児クラスの登園自粛とさせて頂くことになりました。ご協力をお願い致します。

【園医の大塚医師より】

『RSウイルス感染症は飛沫感染です。予防として、マスクや手洗いがありますが、未満児のお子さんはマスクが上手くできません。熱中症が心配な時期でもあり、幼児クラスもマスクを常に着けていることは難しいです。RSウイルス感染症は鼻水が沢山でて、咳は数日間の中に増えていきます。幼児クラスは熱を伴わない風邪症状のみ、ということも多いです。そのため、熱を伴わない鼻水・咳のみの場合でも、風邪症状がある場合には受診をしましょう。』

と指導がありました。

【感染拡大防止として】

大塚医師の指導を受けまして、

- ①発熱・咳・鼻水などの症状がある場合には登園を控えてください。
- ②園内でも症状のある場合には0歳児・1歳児クラス以外でもお迎えをお願いすることがあります。
- ③インフルエンザ感染症同様、全園児の10%以上の感染が確認された時点で、全園児の登園自粛をお願いすることがありますのでご了承ください

【その他】

☆RSウイルス感染症と診断された場合には登園許可書が必要になります。主治医より登園の許可が出た際には登園許可書を記入して頂き、園に提出をお願いします。登園許可書の用紙は園の玄関にあります。又、ホームページからダウンロードもできます。

☆お子さんの症状により医療機関ではRSウイルスの検査対象ではない場合があります。主治医の指示に従ってください。

☆RSウイルス感染症や風邪症状がありお仕事がお休みできない場合には、病後児保育室にお問い合わせください。

☆裏面にRSウイルス感染症の参考資料を載せました。玄関にも掲示があります。ホームページのお知らせも更新していきます。

緊急 ミニおたより

RSウイルス感染症

※できるだけ早く医師の診断を受けましょう。

鼻水・せきなど、かぜのような症状が出る。熱は出ないこともある。

軽いかぜの症状で済むことも多いが、乳児が感染した場合は重症化しやすいので気をつける。

ゼーゼーと息をして、重症になると呼吸困難に陥る。



潜伏期間=2~8日

感染者のせきやくしゃみによる飛沫感染や、感染者に直接触れたり感染者の触った物を介したりして、接触感染する。

まうちでケア

- * 乳児は、少しでも栄養や水分がとれるようにしましょう。
- * おう吐や下痢を繰り返しているときは、脱水症状を起こさないように、水分補給をしましょう。
- * 適度な室温と湿度を心がけましょう。
- * 体温や体に異常がないか、こまめに確認しましょう。

出席停止期間

重篤な呼吸器症状が消え、全身状態がよいこと。

予防チェックリスト

ていねいに手洗い・うがいをする。

油断
しないで

RSウイルス感染症

RSウイルスは身近なウイルスで、免疫のある大人にはごく軽い風邪ですが、初めてかかる子ども、特に6か月未満の赤ちゃんでは症状が重くなります。家族全員で予防しましょう。

Q せきの風邪って聞いたけど、どんな病気？

A せきが出て、呼吸がゼロゼロするほか、高い熱が出ることも。

RSウイルス感染症は、「せきがひどい風邪」と思っている人が多いようですが、特に乳幼児では高い熱が数日続くことがほとんどです。せき以外にも「ゼイゼイする息苦しさを伴い、夜眠れなくなってしまうことも。また、症状の回復後に中耳炎の合併もしばしば見られます。

Q なぜ注意が必要なの？

A 小さい子どもほど重い症状が出ます。

RSウイルス感染症は、初めてかかったときに重い症状が出るのが特徴で、気管支炎や肺炎で入院が必要になることもあります。

- 呼吸に合わせて肩を動かす
- 呼吸するとき胸がへこむ
- ゼイゼイして、ミルクの飲みが悪い

などは、息苦しさがひどいサイン。早めに受診しましょう。



Q 治すにはどうすればいい？

A 特効薬はありません。安静にして休ませましょう。

RSウイルスに効く薬はありません。ゆっくり休んで、体がウイルスを退治するのを待ちましょう。登園を再開するには、「ゼロゼロした呼吸音やせきが治まり、元気に過ごせる（呼吸器症状が消え、全身状態がよい）」状態まで回復していることが必要です。



Q 予防に必要なことは？

A 周囲がマスクをつけ、こまめに手を洗いましょう。

RSウイルス感染症は、2回目以降の感染では症状が軽くなるのがほとんどで、大人では軽いせきが出る程度のことも。そのため、周囲の人が知らないうちに、子どもにうつす可能性があります。せきや鼻水の症状があるときは、大人がマスクをつけましょう。また、ウイルスは手を介してもうつるので、こまめに手を洗いましょう。

